

東仙台地区社会福祉協議会

活動には志が大事！

会長 渡辺 公一

「少子・高齢化」と言われるようになってから久しい現在、昭和59年12月に仙台市社協より「昭和60年4月から東仙台地区社協をモデル地区社協に指定する」との連絡をいただき、当時の故錦戸会長は4月までの3か月間を本指定までの準備期間とし、取り組むべき活動項目を整理する中、独居高齢者を支援するため（1）会食の集い開催

（2）高齢者を支援するボランティア組織の設立（東仙台よろこびの会）に着手し今日に至っています。「高齢者の孤独死」が社会問題化する中、当社協でもこの問題を深刻に受け止め、町内での見守り活動を強化するための機運が醸成され、小地域福祉活動の項目の中でも重要な活動項目となっています。地域活動の単位は町内会でありますから、社協活動の理念を理解していただくことが重要であり、町内会活動の中にしっかり根付かせることが大切です。アフガニスタンで20年間、医療と農業や土木の指導を実践されて来られた中村哲医師は、昨年12月、銃撃を受け亡くなられました。医師でありながら「100人の医師よりも1人の農業指導者や土木指導者が必要だ」との思いと信念で砂漠化した台地を緑潤う農地に改良しました。彼の地では生活を安定させる為には農業

（食）の仕事が一番との信念からでした。私たちも、活動する場面は違っても「奉仕と共助の志」を常に意識し、社協活動に携わって行かねばと、改めて感じているところです。



今年も力を合わせて

東仙台よろこびの会広報部 横山 久美子

年号が令和に変わった年、東仙台よろこびの会の総会で紺野稜子代表は

「昭和・平成と繋いできた活動の方針は変わる事は無く、心新たに切り替える機会を頂いたものと受け止めて、見守り・寄り添いを深めていきたい」と挨拶されました。総務部・事業部・広報部はそれぞれの計画案どおり活動を進めてきました。毎月開かれる役員会は色々な事情で全員出席が難しい事も出てきましたが協力し合って、会員さんに少しでも喜んで頂けるように工夫を重ねています。75歳以上の一人暮らしが条件の会員さん約170名を見守るボランティアも、ふとわが身を振り返って見ると自分自身がその条件に当てはまるという人も。ボランティアは自分が出来ることを無理しないで長く続けることが大事と言われます。離れて住む親、兄弟がその土地で誰かのお世話になっているかも知れません。そう思って、皆さんもこの地域で私たちと一緒に活動してみませんか？力を貸して下さる方、お待ちしております。令和2年3月7日、おかげさまで会は発足35周年を迎えます。



苗代沢町内会会長 黒澤 清様

第54回仙台市社会福祉大会にて表彰
地域福祉活動の永年従事

地域が生徒を動かす

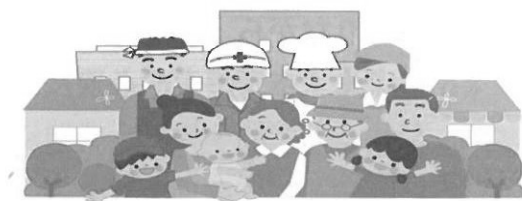
東仙台中学校 校長 斎藤 宏之

11月に開催された『社会を明るくする運動』事業の一環である「合唱とブラスバンドのつどい」において、本校吹奏楽部のマーチングを披露させていただき、その後の全日本マーチングコンテストにおいて初出場で銀賞という快挙を成し遂げることができました。これもひとえに地域の皆様の支援の賜と改めて感謝申し上げます。本校はこれまでも吹奏楽部の演奏、健全育成ボランティア「スーパーアルカス」の活動、美術部や家庭部の作品出展、卓球部の地域交流試合など地域活動や行事に積極的に参加してきました。今後、教員の働き方改革を推進しさらに生徒の地域貢献活動を継続発展させるためには、最終的には学校を介さずに地域の方が直接生徒を動かすような仕組みを構築して行きたいと考えております。今年度立ち上げた「学校支援地域本部」を足がかりに、学校と地域を結ぶコーディネーターの力をお借りして、地域の社会福祉活動がより充実するように新たな地域連携に取り組んで参りたいと思います。

豊かな心の育成を目指して

西山中学校 校長 新沼 健弘

本校では、今年度「豊かな心の育成」を協働型学校評価の到達目標に掲げて、様々な取り組みを実施してきました。その大きな柱となるのが「いじめ防止ミーティング」と「自死予防教育」です。「いじめ防止ミーティング」は7月と12月の年2回、生徒・教員・保護者・地域の皆さんと一緒にいじめ防止について意見交換を行う会です。参加者が問題意識を共有するとともに、世代を超えて交流を深める貴重な機会になっています。「自死予防教育」については、仙台市教育委員会から指定を受け、3年間推進校として取り組んできました。「SST（ソーシャルスキルトレーニング）」と呼ばれる、良い人間関係づくりの活動を中心に実践を重ね、12月20日には公開授業研究会を行いました。今後も、地域の皆様のご協力を得ながら、取り組みを進めて行きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



社協研修会

10月27日 東仙台コミュニティ・センターにおいて、講師に社会医療法人康陽会中嶋病院の法人管理室長・事務長の竹下浩二様をお迎えし「THE 老人ホーム」と題して老人ホームがなぜ必要なのか等のお話をいただきました。高齢化が進む中、東仙台地区周辺も高齢化率が高くなり誰もがより身近な問題として考えるようになってきています。施設の概要や種類、そして費用の面についても詳しく教えていただきました。地元の中嶋病院の竹下さんからの話とあって、参加した誰もが親しみを感じ頷きながら話を聞いていました。社協だよりせんだい vol.8n にも掲載



竹下 浩二室長



熱心に聞き入る皆さん

介護認定が必要な老人ホーム

※特別養護老人ホーム(原則要介護 3 以上) ※老後保険施設(要介護 1 以上) ※介護両型医療施設(要介護 1 以上) ※介護付き有料老人ホーム(原則 65 歳以上、要介護 1 以上)
※グループホーム(原則 65 歳以上、要介護 2 以上の認知症高齢者)

子供会育成会です！

東仙台学区子ども会育成会連合会 会長 堀越 充

ん？育成会ってナニ？と思う方がいらっしゃるかもしれませんね。今日は私たちの活動について、ちょっと説明させていただきます。

各町内会には、主に小学生と保護者で活動する「子ども会」があります。その「子ども会」が集まってできているのが「子ども会育成会」です。東仙台学区では、ラサールさんも含め 12 の子ども会で構成されています。

主な行事はふたつ。ひとつめが、6 月に開催する「あつまれ！東仙っ子」。スポーツや遊びを通じて体を動かして楽しみながら、違う学年の子どもたちとの関わりを持てるような、いわゆる「動」の行事です。もうひとつが 10 月に開催する「子どものあそび大会」。(来年度から「子どものあそびまつり」に名称が変わります)飾りや文具、おもちゃなどをブースごとに大人に教えてもらいながら自分で作る、ものづくりと創意工夫のいわゆる「静」の行事です。もちろんどちらの行事も、どうしたら子どもたちがより目を輝かせてくれるのか、大人たちのアイデアとサポートの腕の見せどころでもあります。

材料など行事の運営費には、各子ども会からの会費に加えて、こちらの社会福祉協議会様からの助成金にも大きく支えられています。このように、地域の方々の理解と協力で助けられながら子どもたちのため、楽しみながらがんばっています！



西山連合町内会 会長 門松 栄松

西山中学校は昭和 61 年に、西山小学校は平成 3 年に共に、東仙台小中学校より分かれて独立し西山と言う新しい名をいただき第一歩を印しました。この頃の東仙小は千人を超す子供達で元気一杯の日々でした。そし並行する様に、西山連合町内会が平成 3 年に発足しました。鶴ヶ谷から静かに下る稜線には山があり、川が流れ田園風景にあふれておりました。子供達は歩く事が当たり前、緑豊かな水田にはホタルが舞い稲の実る頃には、イナゴとりと自然を十分に満喫して成長しました。時は流れ 3・40 年でそれらのほとんどは宅地化され現在に至っています。専売公社には引込線があり仙山線と並行して走っていた事、仙塩街道に松原街道、地名として残る西田西風の西風（ならい）と呼ばれ、今も西風が強いふきつける土地で、又、小鶴は我が子を失った女性の悲しみのあまり、はてた地名である事等発展の中のも美しい思い出とロマンを語る事のできる連合町内会です。



【お知らせ】小地域福祉ネットワーク推進事業生活支援活動実績報告 令和元年度上半期

◎日常支援活動対象者 147 名 ◎活動実施世帯数 262 戸 ◎延べ実施数 1124 日

主な支援活動

- ◎家 事 支 援 ・草取り・除雪・買物・ゴミ出し・掃除・庭木枝切り・惣菜届け・配布物取り
- ◎外 出 支 援 ・外出付き添い・通院付き添い・通院送迎・外出送迎
- ◎そ の 他 ・簡単な用足し・器具・電灯の修理部品交換・話し相手・血圧測定・敬老会祝い品届
- ◎サロン活動 ・支援対象者 315名 ・支援者 80 名

東仙台地区社会福祉協議会役員

会 長	渡辺 公一
副 会 長	松浦 秀行
副 会 長	日塔 芙士子
副 会 長	紺野 稜子
庶 務	相澤 裕子
会 計	紅林 富子
監 事	高橋 和子
常任理事	鈴木 テル子
常任理事	田頭 ミチコ
常任理事	米山 裕美



事務所